

## Dr. Johnson's Dictionary in Miniature

今 里 智 晃

### I

Dr. Johnsonの英語辞典に各種の判型のものがあるのは周知の事実である。1755年の初版は folio 判で、これは Seventh edition (1785) のあと Harrison's edition (1786) まで続いた。quarto 判は1755年の Fourth edition 以降 Eighth edition (1799) まで続き、octavo 判は1756年以降 Eleventh edition (1799) まで続いた。その後19世紀に入っても、'Johnson's Dictionary' という標題を掲げた各種の改訂増補版が多数発行された。

この他に、いわゆる miniature 判の 'Johnson's Dictionary' が多数発行されている。その嚆矢は1794年の *Johnson's Dictionary of the English Language in miniature* (London: George Stafford) で、duodecimo 判。同じ標題のものが Twelfth edition (1800) まで版を重ねている。なお、1796年発行の Fifth edition には、編者が Rev. Joseph Hamilton になっている。この種の miniature 判は、1800年以降も London だけではなくイギリスの各地、さらにはアメリカなどでも発行された。

この詳細については R.C. Alston (1966)<sup>1)</sup> が網羅的だが、実際にこの miniature 判の英語辞典がいかなるものかはこれまで実物にお目にかかる機会がなかったので、よく分からなかった。

ところが、筆者はこのたび幸運にも、このうちの一冊を入手することができた。その標題は、

JOHNSON'S  
DICTIONARY  
OF THE  
*English Language*  
IN MINIATURE

⋮

(途中省略)

⋮  
LONDON

1806.

となっている。この辞典は1806年の発行だが、Alston (1966) には、

⋮  
ninth edition (8°), London, 1805  
Philadelphia, 1805  
(miniature), Montrose, 1806  
second edition (miniature), Boston, 1806  
seventh edition, London, 1806  
ninth edition (4°), London, 1806  
second edition (miniature), Newburyport, 1806  
twelfth edition (8°), London, 1807  
⋮

という具合に発行年代順に並べられているにもかかわらず、この辞典が記載されていない。<sup>2)</sup>

もとより Alston (1966) にも、‘the following list does not purport to be exhaustive’ (以下のリストが包括的なものだと称さない) と書いてあるし、また、

The following list of editions of the Dictionary published after 1800 does not pretend to be more than a rough checklist, based on my own researches, and on lists which have been sent to me by a very large number of libraries.

(以下に作成した1800年以降に発行された辞典のリストは、筆者自身の調査と数多くの図書館から送られてきたリストを基にした大雑把な目録以上のものだと言うつもりはない)  
と弁解めかした言葉を繰り返している。

更に、この辞典の ADVERTISEMENT にある言葉、

The rapid Sale of the Thirteen former Editions of this Dictionary has induced the Editor to comply with the Desires of the Public, in preparing another Impression for the Press.

(この辞典は過去13回にわたる各版の売れ行きが好調であったため、

編者は一般の利用者の要望に応じて、出版社に増刷の用意を依頼する気になった)  
 がたとえ商業政策上の方便とも言うべきものを含んでいるにせよ、この  
 'Thirteen former Editions'なるものの実体もよく分からない。そこで、本  
 稿は取り敢えず1806年発行の当該辞典を対象にしてその収録語を親辞典た  
 る1755年の初版と比較分析し、併せていわゆる miniature 判の特徴を考察  
 することを目的とするものである。

## II

当該辞典（以下 *Johnson's Miniature* と略記）は、23,439語を収録して  
 いる。miniature 判にしては意外に多いと感じるが、これは発音表記、語  
 源はもとより用例を一切省いたためである<sup>3)</sup>。親版の *A Dictionary of the  
 English Language* (1755, 以下 *Johnson* と略記) には41,677語<sup>4)</sup>が見出し  
 として収録されているので、*Johnson's Miniature* の収録語数は親版に対  
 して56.2%に相当する。収録語の内訳は以下のようにになっている。

(項 目)	<i>Johnson (1755)</i> <i>Johnson's Miniature (1806)</i>	
	(語 数)	(語 数)
A	2,888	1,637
B	2,285	1,154
C	4,376	2,545
D	2,688	1,594
E	1,705	1,111
F	1,983	1,176
G	1,275	803
H	1,469	829
I	2,234	1,588
K	215	139
L	1,291	869
M	2,052	1,302
N	637	387
O	1,009	616
P	3,310	2,231
Q	252	139

R	1,921	1,233
S	4,513	2,751
T	1,865	1,183
V	2,558	1,393
W	1,032	672
X	1	1
Y	89	55
Z	29	31

---

(合計) 41,677 23,439

*Johnson's Miniature* の収録語数は、上に示した表でも分かるように、*Johnson* の約半分ではない。しかし、ADVERTISEMENT には

It has also this superior Advantage, that the more obsolete Excrescences of Johnson, and other eminent Lexicographers, are here exchanged for many additional scientific and literary Terms not current in their Time.

(また、この辞典には次のような優れた点がある。それはジョンソンや他の立派な辞書編纂者たちの時代遅れの無用の長物を削り、彼らの時代にはまだ使われていなかった学術用語や文学用語を多数補充したことである)

という謳い文句がある。凡そ辞書というものは、*OED* のように1150年以降に英語として文献に一度以上使用された全ての「普通語」(Common Words) を収録するという方針で編纂された大辞典は別格にして、程度の差はあれ収録語数を制限することを免れえない。いわゆる中型辞書や小型辞書となれば、語彙の選択は利用者層の設定とともに編纂作業の中心的な課題といえるであろう。Hulbert (1955) が、

Perhaps the first step in making a dictionary is the determination of its scope, which may be dependent on the class of people for whom it is intended — if it is designed for a particular public, such as students in school, stenographers in offices; or only on its field, for example American English or dialects.<sup>5)</sup>

(辞書編纂の第一歩は、取り扱う範囲の決定であろう。どのような種類の利用者——学生とか会社の速記者とか特定の人々——を想定するのか

で決める場合もあるし、例えば米語や方言といった範囲によって決める場合もある)

と述べたように、辞書事体の成果をそれこそ左右しかねない重要な「第一歩」がここにあるのである。

### Ⅲ

*Johnson* と *Johnson's Miniature* の間には約半世紀の時間的隔たりがある。では、この両者の収録語彙を後者を中心に具体的に見てゆくことにする。

先づ、*Johnson's Miniature* に「補充」された語のうち *Johnson* の時点では未だ存在しなかった、或いは一般には定着するに至らなかった語は次の通りである（最初の数字は *OED* の示す初出年）。

1784	Aeronaut (s)	1756	Funny (a)
1760	Agriculturist (s)	1755	Handcuff (v.a.)
1784	Alto (s)	1775	Labefaction (s)
1784	Amateur (s)	1770	Marauder (s)
1754-64	Bougie (s)	1758	Negotiable (a)
1792	Calcareous (a)	1761-72	Ostensible (a)
1806	Conversely (ad)	1757	Patriotic (a)
1767	Copyright (s)	1766	Stultify (v.a.)
1766	Cotillon (s)	1782	Tarantella (s)
1754	Emigrant (a,s)	1794	Telegraph (s)
1784	Epaulettic (s)	1765	Tontine (s)
1768	Expatriated (part)		

僅か半世紀の間に、名詞を筆頭に各品詞が新語として英語に加わった。ここには取り立てて学術用語と言うべきものは見られぬが、専門語として Alto [音楽] (アルト), Cotillon [ダンス] (コティヨン), Tarantella [ダンス] (イタリアのダンス, タランテラ), Epaulettic [軍事] (正肩章) などがある。また、次に挙げたのは語義が現在 (複数の語義がある場合には頻度数が高いもの) とは異なるもので、時代を感じさせる。

Agriculturist (s) a husbandman, a farmer

Amateur (s) a virtuoso; a lover of the arts

Emigrant (a) going from place to place — (s) a Frenchman

banished from his country for refusing to acknowledge the authority of the National Convention

Telegraph (s) a machine invented by the French, for the rapid conveyance of intelligence by signals

更には、Methodism (メソジスト主義) は、初出が1739年ではあるものの、1795年に国教会から分離してからこの語が「メソジスト派の教義」を非難攻撃する言葉として用いられ一般化したことからすれば、*Johnson* に記載されていないのも宜なるかなと言えよう。

次に、初出例が18世紀前半でありながら *Johnson* には収録されていない語を挙げると、以下の通りである。

1744	Accompaniment (s)	1706	Obituary (s)
1742	Andante (ad)	1741	Overanxious (a)
1718	Cicisbeo (s)	1734	Pinchbeck (s)
1738	Coterie (s)	1742	Predilection (s)
1702–21	Critique (s)	1711	Premier (s)
1749	Demirep (s)	1738	Profligacy (s)
1751	Descriptive (a)	1728	Pyretics (s)
1736	Dingy (a)	1707	Reconnoitre (v.a.)
1719	Domino (s)	1728	Saloon (s)
1740	Duet (s)	1749	Sentimental (a)
1752	Eyelash (s)	1712	Showy (a)
1747	Hightytighty (a)	1727	Skit (s)
1706	Jam (v.a.)	1727	Spank (v.a.)
1730–36	Incriminate (v.a.)	1700	Teacup (s)
1743	Infuenza (s)	1708	Truism (s)
1739	Methodism (s)	1731	Ultimatum (s)
1703	Muffin (s)	1750	Zigzag (a)

この中には、専門語として Andante [音楽] (アンダンテ), Critique [文学] (文芸批評), Duet [音楽] (デュエット), Pyretics [医学] (解熱剤) などが含まれている。また、現在の語義とは異なるものもある。

Demirep (s) a woman of light frame

Skit (s) a whim; lampoon; insinuation

Demirep は *Johnson's Miniature* では「華奢な女」であるが、*OED* では

'A woman whose character is only half reputable; a woman of doubtful reputation or suspected chastity.' という具合にいかがわしい感じが前面に出た語義になっている。因みに、*WNCD*<sup>9</sup>を見れば、lb に 'prostitutes' の語義がある<sup>6)</sup>。Skit については、「滑稽な寸劇、素人が演じる寸劇」という語義はまだなく、逆に「きまぐれ、諷刺文、あてこすり」という語義は現在あまり使われない。

*Johnson* には収録されていなくて *Johnson's Miniature* によって「補充」された語は、筆者の調査では以下の1,129語である。

(項 目)	(語 数)	(項 目)	(語 数)
A	79	N	30
B	40	O	30
C	112	P	94
D	88	Q	5
E	59	R	40
F	63	S	104
G	35	T	47
H	38	V	41
I	72	W	34
K	2	Y	3
L	43	Z	4
M	66		
		(合計)	1,129

これは *Johnson's Miniature* の約4.8%にあたる。では具体的にBの項目に「補充」された語を取り上げ、ついでに *Johnson* 以前の代表的な辞典である *Dictionarium Britannicum* (1730)<sup>7)</sup> ではどうなっているかも調べてみる (+は当該語が収録され、-印は収録されていないことを示す)。

<i>Dictionarium</i>	<i>Johnson</i>	<i>Johnson's Miniature</i>
+	-	Baal
+	-	Banians
+	-	Barberry-tree
-	-	Barilla
+	-	Battering-ram
-	-	Belligerent

+	-	Bell metal
+	-	Benedictine
+	-	Benighted
+	-	Bernardines
+	-	Bey
-	-	Biblical
+	-	Bill of parcels
+	-	Billet-doux
+	-	Blank-verse
-	-	Bleached
+	-	Bleareyed
+	-	Blindfold
-	-	Boiled
-	-	Bookkeeper
-	-	Bougie
-	-	Bowelless
-	-	Bowstring
+	-	Braced
+	-	Bramin
-	-	Branded
+	-	British
-	-	Briton
-	-	Broached
-	-	Bruising
-	-	Buckskin
-	-	Bumboat
+	-	Bun
-	-	Bungled
-	-	Buoyed
-	-	Burletta
+	-	Burrelshot
-	-	Butchered
+	-	Butterpump



+

-

## Buzzing

ここには学術用語として Bell metal [冶金] (鐘青銅), Blank-verse [詩学] (無韻詩), Burletta [演劇] (喜歌劇), 専門語として Barberry-tree [植物] (メギの木), Barilla [植物] (オカヒジキ), Benedictine [カトリック] (ベネディクト会士), Butterpump [鳥類] (サンカノゴイ), 更には固有名詞 Briton (ブリトン人) などが含まれている。これは *Johnson's Miniature* で「補充」された全ての語彙を鳥瞰しても当てはまることである。従って、ADVERTISEMENT にある編纂者の「…多数補充した」という言葉も, miniature 判であることを考慮した上で *Dictionarium* にもない語が「補充」されている事実を加えて見れば, それほどの大言壮語とも言えないであろう。

## IV

*Johnson* は先行する英語辞典が所謂「難解語」(Hard-words) 辞書の系譜に属していたのに対し, 永嶋 (1983) が喝破したように英語アカデミー思想に基づく「ハイ・ブラウの伝統」を樹立した。*Johnson* の存在が如何に大きな影響力を持ったかは, その後約一世紀の間これに対抗しうる新しい英語辞典の編纂が行われなかったことからよく分かる。*Johnson* の収録語彙で最大の特徴は, 主として Sir Philip Sidney から王政復古に至る時代の用例を中心に据えたことである<sup>9)</sup>。しかし, 時間が経過するにつれ, これが逆に弱点になってきた。日常用語や新しい言葉はもちろん, 他にも日常生活に役立つ情報を付録に盛り込んだ新しい辞典の需要も当然ながら多かった筈である。ここに *Johnson's Miniature* のような手軽に利用できる辞典の存在意義がある。と同時に, それでもなお 'Johnson' を標題に借りて付けねばならなかったエビゴーンの限界もある。

## Notes and References

Primary sources:

*JOHNSON'S DICTIONARY of the English Language in MINIATURE*, ed. Joseph Hamilton. London, 1806.

*A DICTIONARY of the ENGLISH LANGUAGE*, ed. Samuel Johnson. 1st edition. 2 vols. London, 1755. Facsimile reprint, Tokyo: Yushodo, 1983.

- 1) Alston, R.C. 1966: *A Bibliography of the English Language from the Invention of Printing to the year 1800*. Vol. V. *The English Language*. Leeds: E.J.

Arnold & Son.

- 2) Alston, p. 39.
- 3) 但し、巻末に A Concise Account of the HEATHEN DEITIES and Other FABULOUS PERSONS と A List of the CITIES, BOROUGHs, and MARKET TOWNS in ENGLAND and WALES (これには市の立つ曜日とロンドンからの距離が書いてある), A CHRONONOGICAL TABLE of Remarkable Events, Discoveries, and Inventions, MEN of LEARNING and GENIUS, 更には CHRONOLOGY of the MOST REMARKABLE EVENTS that have occurred during the FRENCH REVOLUTION などという付録がある。これはイギリスの中型、小型辞書の伝統的なものである。
- 4) 熟語も主見出し語になっている場合には数える。一カ所にまとめてある variant spelling については一つとする。
- 5) Hulbert, J.R. 1955. *Dictionaries: British and American*. London: Ander Deutch, p. 45.
- 6) Smith, F.C. et al. (eds.) 1983. *Webster's Ninth New Collegiate Dictionary*. Springfield: Merriam-Webster.
- 7) Bailey, N. (ed.) 1730. *Dictionarium Britannicum: or a more compleat Universal Etymological English Dictionary than any extant*. 1st edition. London; Facsimile reprint, Hildesheim and New York: Georg Olms, 1969.
- 8) 永嶋大典1983. 『ジョンソンの『英語辞典』』, 東京:大修館書店, 第II, III章.
- 9) ジョンソンは Sir Philip Sidney から王政復古までの時代, 所謂エリザベス朝の英語を「汚れなき英語の泉」(the wells of English undefiled) と評価した。Cf. "Preface" to the *Dictionary*, par. 61.

## *Dr. Johnson's Dictionary in Miniature*

Chiaki IMAZATO

More than hundred 'Johnson's' dictionaries have so far been published not only in English but in other countries, and there are numerous books and articles on *Johnson's Dictionary*. But few have referred to *Johnson's Dictionary in Miniature*; nor were there any books or articles on it. Fortunately, however, I've got one copy of *Johnson's Dictionary in Miniature*, which was published in 1806.

*Johnson's Dictionary* (1755) has 41,677 entries, whereas *Johnson's Dictionary in Miniature* 23,439 entries. The latter is about half as large as the former. It is true that the miniature dictionary is small in the literal sense of the word, but this one says in ADVERTISEMENT that 'more obsolete Excrescences of Johnson, and other eminent Lexicographers, are here exchanged for many additional scientific and literary Terms not current in their Time.' What kind of words were newly adopted there?

'The first step in making a dictionary,' wrote J.R. Hulbert, 'is the determination of its scope.' The secret of making a good dictionary, therefore, lies in determining what words to adopt as well as what words to delete. This paper aims to examine the difference of vocabulary these two dictionaries have. First of all, scores of words are enumerated, *none* of which we can find in *Johnson's Dictionary*. Then, they are to be considered from the viewpoint of meaning and the range of use.